



JFE

JFEホールディングス株式会社

2021年3月期通期決算説明会（インベスターズ・ミーティング）

2021年5月7日

登壇

司会：ご参加の皆様、大変長らくお待たせいたしました。

これより、JFEホールディングスのインベスターズ・ミーティングを開催させていただきます。

今回のインベスターズ・ミーティングは、事前にお伝えしていますとおり2部構成で進行いたします。第1部で20年度通期決算説明、および質疑応答を実施いたします。その後、第2部で第7次中期経営計画の説明、および質疑応答を行います。

出席者は柿木社長、それから田中専務執行役員でございます。

それでは、本日発表いたしました決算、および業績見通しにつきまして、田中専務執行役員よりご説明申し上げます。

田中：田中でございます。それでは、本日ホームページに掲載いたしました決算の説明資料に基づきましてご説明いたします。



2020年度 決算概要

JFEホールディングス

JFE

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大等の影響により、上期は大幅な赤字計上となった
- ・ 上期後半以降の鋼材需要と鋼材市況の回復、収益改善に向けた取り組みの着実な実行により、下期は黒字となったが、
年間事業利益は▲129億円（前回見通し比+191億円）となった

(億円)	2019年度 実績(A)	2020年度 見通し(B)	2020年度 実績			増減 (C-A)	増減 (C-B)
			上期	下期	年間(C)		
売上収益	37,297	32,400	14,922	17,349	32,272	▲5,025	▲128
事業利益	378	▲320	▲1,143	1,014	▲129	▲507	191
金融損益	▲125	▲130	▲64	▲60	▲124	1	6
セグメント利益	253	▲450	▲1,207	953	▲254	▲507	196
個別開示項目	▲2,388	220	—	204	204	2,592	▲15
税引前利益	▲2,134	▲230	▲1,207	1,158	▲49	2,085	181
税金費用・非支配持分 帰属当期利益	157	▲150	150	▲320	▲169	▲326	▲19
親会社の所有者に帰属 する当期利益	▲1,977	▲380	▲1,057	838	▲218	1,759	162

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を含めたもの

4

まず、2020年度のJFEグループの決算です。

2020年度上期においては、新型コロナウイルス感染拡大等の影響によりまして大幅な赤字でしたが、2020年度上期の後半以降、鋼材需要と鋼材市況の回復、収益改善に向けた取り組み等によりまして、2020年度下期は黒字となりました。

事業利益については、2020年度上期は1,143億円の赤字でしたが、2020年度下期は1,014億円の黒字と、1,000億単位で赤字黒字と大きく動きましたが、2020年度年間の事業利益は129億円の赤字という実績です。

セグメント利益につきましては254億円の赤字、当期利益は218億円の赤字、以上が20年度の実績です。

右側をご覧くださいますと、C引くB、これは21年2月に発表しました年間見通しとの比較でございますが、セグメント利益はおおむね200億円程度、前回の見通しから改善しております。



2020年度 決算概要 セグメント別

JFEホールディングス

(億円)	2019年度 実績(A)	2020年度 見通し(B)	2020年度 実績			増減 (C-A)	増減 (C-B)
			上期	下期	年間(C)		
売上収益							
鉄鋼事業	26,813	22,600	10,272	12,279	22,552	▲4,261	▲48
エンジニアリング事業	5,122	4,900	2,219	2,637	4,857	▲265	▲43
商社事業	10,841	9,400	4,517	4,807	9,325	▲1,516	▲75
調整額	▲5,480	▲4,500	▲2,086	▲2,375	▲4,461	1,019	39
合計	37,297	32,400	14,922	17,349	32,272	▲5,025	▲128
事業利益 (A)	378	▲320	▲1,143	1,014	▲129	▲507	191
金融損益 (B)	▲125	▲130	▲64	▲60	▲124	1	6
セグメント利益							
鉄鋼事業	▲87	▲800	▲1,362	708	▲654	▲567	146
エンジニアリング事業	231	220	87	153	240	9	20
商社事業	270	170	72	128	200	▲70	30
調整額	▲159	▲40	▲4	▲36	▲41	118	▲1
合計 (A+B)	253	▲450	▲1,207	953	▲254	▲507	196

5

次に、売上収益、ならびにセグメント利益をセグメント別に展開しております。ご覧いただきたいのはセグメント利益で、21年2月の見通しに対して約200億円の改善ですが、鉄鋼事業、エンジニアリング事業、商社事業、それぞれが改善しております。



キャッシュフローの状況

JFE

収益の回復や資産圧縮の上積みにもなうキャッシュフロー改善により、
 21年3月末の有利子負債残高は前年度末を下回る1兆8,061億円となった
 (D/E 93.2%)

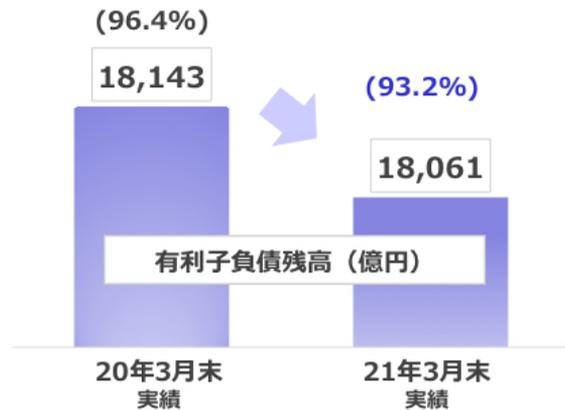
2020年度 連結キャッシュフロー

(億円)

原資	用途
減価償却費 および償却費 2,363	当期純損失 218
	設備投資 および投融資 3,227
資産圧縮 1,800	有利子負債 82
	運転収支他 636

有利子負債残高とD/Eレシオ

(D/Eレシオ※)



※D/Eレシオ: 借入金・社債等残高/自己資本
 但し、格付け評価上の資本性を持つ負債について、
 格付機関の評価により資本に算入

6

次はキャッシュフローの状況です。

収益回復、資産圧縮の上積みに伴いまして、キャッシュフロー改善を図りました。結果として、2021年3月末の有利子負債残高は1兆8,061億円と、前年度に対して80億円ほど改善しております。結果、D/Eレシオは93.2%となりました。

下の左側にキャッシュフローの表がございますが、減価償却費と投資の金額を比較しますと、今年度も投資額のほうが上回っております。それを政策保有株や土地の売却による資産圧縮1,800億円によってまかなっております。

また、一昨年以来、資産売却、資産圧縮によってキャッシュフローを創出すると申し上げてまいりましたけれども、実績は2019年度・2020年度通算で2,150億円となり、前回までの見通しで2,000億程度としていたところからも上積みができました。



2020年度決算

	単位	2019年度 年間	2020年度					2020年度 前回見通し
			上期	10-12月			年間	
				1-3月	下期			
売上収益	億円	26,813	10,272	5,802	6,476	12,279	22,552	22,600
セグメント利益	億円	▲87	▲1,362	343	364	708	▲654	▲800
棚卸資産評価差等除*	億円	213	▲682	143	224	368	▲314	▲390
単独粗鋼生産量	万t	2,673	1,017	627	632	1,259	2,276	2,270
連結粗鋼生産量	万t	2,809	1,077	659	660	1,319	2,396	2,390
単独鋼材出荷量	万t	2,347	934	542	572	1,115	2,049	2,050
鋼材輸出比率 単独・金額ベース	%	41.5	42.2	40.3	44.3	42.4	42.3	43
鋼材平均価格	千円 /t	78.8	73.1	73.4	78.8	76.2	74.8	75
為替レート	円/ドル	109.1	106.8	104.8	104.7	104.8	105.8	106
期末為替レート	円/ドル	108.8	105.8	103.5	110.7	110.7	110.7	

*セグメント利益から、棚卸資産評価差、原料キャリーオーバー、為替換算差を除いた損益

それでは JFE スチールの決算の内容をご説明します。

諸元を 1 表に整理しておりますけれども、まずご覧いただきたいのは単独の粗鋼生産量です。

2020 年度の粗鋼量実績 2,276 万トンということで、2019 年度と比較しますと約 400 万トン程度減産です。21 年 2 月発表の見通しが 2,270 万トンですので、ほぼ見通しどおりの粗鋼量で着地いたしました。

輸出比率につきましては 42.3%で、対前年度でほぼ同じ水準です。

鋼材平均価格につきましてはトン当たり 7 万 4,800 円で、前年度対比で 4,000 円ダウンです。

為替レートにつきましては、前年度 1 ドルあたり 109.1 円に対して今年度の実績 105.8 円ということで、3 円ほどの円高です。



セグメント利益 + 146億円内訳

グループ会社収益の改善、為替換算差等により、前回公表比で+146億円の改善となった

JFEスチール	2020年度 見通し	2020年度 実績	増減
セグメント利益	▲800	▲654	+146
1. コスト	±0		
2. 数量・構成	+10	・ 生産量増加 (粗鋼量 2,270⇒2,276万t +6万t)	
3. 販価・原料	+20	・ 輸出を中心とした市況改善	
4. 棚卸資産評価差等	+70	・ 棚卸資産評価差 +10 (▲380→▲370) ・ 原料キャリーオーバー影響 +10 (+20→+30) ・ 為替換算差 +50(▲50→±0)	
5. その他	+46	・ 国内外グループ会社収益の改善 他	

9

次に、2020年度実績について、21年2月に発表しました見通しから146億円好転した内容についての分析です。

数量・構成につきましては若干の増で10億円のプラスです。販価・原料につきましては、輸出を中心とした市況改善がありまして、20億円のプラス。棚卸資産評価差等につきましては70億円のプラスがありますけれども、期末にかけて円安が進んだことで為替の換算差によるプラスが大きかったことが主な要因です。

加えてグループ会社収益の改善等が加わりまして、合計して146億円の改善です。



2020年度 セグメント利益 対前年度 ▲567億円内訳

JFE

1,000億円のコスト削減を実行するも、新型コロナウイルスの影響による上期の数量減、国内外のグループ会社収益の悪化等により、前年度比で減益となった

(億円)

JFEスチール	2019年度 実績	2020年度 実績	増減
セグメント利益	▲87	▲654	▲567
1. コスト	+1,000	・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減 ・ 設備投資効果発現 等	
2. 数量・構成	▲1,040	・ 需要低下に伴う数量減 (粗鋼量 2,673⇒2,276万t ▲397万t) ・ 品種構成悪化	
3. 販価・原料	+20		
4. 棚卸資産評価差等	▲40	・ 棚卸資産評価差▲150 (▲220→▲370) ・ 原料キャリアオーバー影響+100 (▲70→+30) ・ 為替換算差+10(▲10→±0)	
5. その他	▲507	・ 国内外グループ会社収益の悪化 他	

10

次が前年度との比較です。

前年度実績が 87 億円の赤字で、今年度が 654 億円の赤字ということで、567 億円の悪化です。

コスト削減につきましては 1,000 億円で、これは予定どおり実績として実現いたしました。

数量・構成につきましては、粗鋼量の減を中心に品種構成の悪化等を含めて、1,040 億円のマイナスです。コスト削減とともに 1,000 億円単位でプラスとマイナスが存在する状況になっています。

販価・原料につきましては、両者を合算しますとプラス 20 億円ですけれども、販価がマイナスになった一方で、原料がプラスとなりました。原料についても、鉄鉱石の値段が上がったのに対し、原料炭の値段が下がった結果です。

棚卸資産評価差等につきましては、スライドに記載のとおりです。その他につきましては、国内外のグループ会社の収益がコロナウイルス影響等により大きく悪化したこと等あり、およそ 500 億円のマイナスという内訳です。



2020年度決算

JFE 損益概況

▶ コロナ状況下においても受注は前年度より大幅拡大、セグメント利益も3期連続増益を達成*

- 国内の環境関連分野、および橋梁等の社会インフラ分野を中心に各分野で受注拡大
- 新型コロナウイルスの影響等により、売上収益は減少したものの、コストダウン等により増益

・ セグメント利益： 17年度193億円、18年度201億円、19年度231億円、20年度240億円 (17年度は日本基準経常利益)

(億円)	19年度 (実績) (A)	20年度 (見通し) (B)	20年度 (実績) (C)	増減 (対前年度) (C)-(A)	増減 (対見通し) (C)-(B)
受注高	4,130	5,000	5,011	+881	+11
売上収益	5,122	4,900	4,857	▲265	▲43
セグメント利益	231	220	240	+9	+20

対前年度

- ・受注高 +881 環境、社会インフラ分野等の公共工事を中心に大型案件の受注増
- ・売上収益 ▲265 工事量減および新型コロナ影響により減少
- ・セグメント利益 +9 コストダウンによる改善

対見通し

- ・セグメント利益 +20 コストダウンによる改善

12

次に JFE エンジニアリングです。

2020 年度の実績につきまして、受注高が 5,011 億円で、2020 年度見通しの 5,000 億円を達成しております。セグメント利益は 240 億円で、コストダウンによる改善もありまして、見通し 220 億円から 20 億円の改善になりました。

前年度と比較しますと、受注高について、前年度は大型案件の端境期ということもあって 4,100 億円台でしたが、今年度は環境、インフラ等で公共工事を中心に大型案件の受注によって増加しております。

セグメント利益は前年度と比較して 9 億円の増益という結果になりまして、3 期連続の増益を達成しております。



2020年度決算

JFE

損益概況

下期は、自動車をはじめ需要が回復したに加え、鋼材市況が上昇したが、上期における国内外鋼材需要の落ち込みが大きく、年間セグメント利益は前年度比 ▲70億円の200億円となった

(億円)	A 19年度実績		B 20年度見通し		C 20年度実績		対前年度 増減 C-A 年間	対見通し 増減 C-B 年間
	下期	年間	下期	年間	下期	年間		
売上収益	5,266	10,841	4,883	9,400	4,807	9,325	▲1,516	▲75
セグメント利益	124	270	98	170	128	200	▲70	+30

対見通し： セグメント利益 +30
国内外の需要回復や、米国エネルギー分野をはじめとした鋼材市況上昇の影響

次に JFE 商事です。

売上収益が 9,325 億円、セグメント利益 200 億円という実績です。

国内外の需要回復、アメリカ鋼材市況好転等の要因があり、21 年 2 月公表の 2020 年度見通しに対してセグメント利益は 30 億円上振れとなりました。

前年度と比較しますと、2020 年度上期が需要の落ち込みが大きかったこともありまして、セグメント利益は前年度比で 70 億円のマイナスです。

以上がセグメント別の実績で、次に配当についてです。



期末の配当については、
鉄鋼事業を中心とした下期の大幅な収益の改善と、
来年度の業績動向を踏まえ、
1株につき10円（年間10円）とする案を
株主総会にお諮りする方針といたしました。

□ 鋼材需要

国内外ともに鋼材需要は総じて回復基調継続を見込む

- 国内：経済の持ち直しを背景に、緩やかな回復が継続
- 海外：中国需要は継続して旺盛、
各国・地域の経済も復調を背景とした需要回復を見込む

□ メタルスプレッド

- 主原料市況
 - 中国の旺盛な鋼材需要を背景に、主原料市況は高値推移を見込む
- 鋼材価格
 - 海外鋼材市況は足元は高水準で推移しているが、年度後半に向けて徐々に調整に向かうと見ている
 - 主原料コストの上昇分については鋼材価格へ確実かつ速やかに反映するべく努める

18

次に 2021 年度の業績の予想です。

足下の事業環境認識につきまして、鋼材需要は国内外ともに総じて回復基調継続を見込んでおります。

国内については経済の持ち直しを背景に、緩やかな回復が継続すると考えております。海外につきましても、中国は継続して需要は旺盛であることとともに、各国、各地域の経済も復調を背景として需要回復が見込めると考えております。

メタルスプレッドについて、主原料市況は中国の旺盛な鋼材需要を背景に、非常に高値で推移すると考えております。

鋼材価格につきましては、特に海外の鋼材市況が非常に今高い水準です。一方、現行の水準がそのまま継続するとは考えておらず、年度後半にかけて徐々に調整に向かうと見込んでおります。

そういった中で、主原料コストの上昇については鋼材価格へ確実に、かつ速やかに反映するよう努めていきます。

ホールディングス事業利益は、2,000億円の見通し

(億円)	2020年度 実績(A)	2021年度 見通し(B)	差異 (B-A)
売上収益	32,272	39,300	7,028
事業利益	▲129	2,000	2,129
鉄鋼事業	▲654	1,400	2,054
エンジニアリング事業	240	250	10
商社事業	200	270	70
セグメント利益 (調整額込み)	▲254	1,900	2,154
親会社の所有者に帰属する当期利益	▲218	1,300	1,518

事業利益：税引前利益から金融損益及び金額に重要性のある一過性の項目を除いたもの
セグメント利益：事業利益に金融損益を加えたもの

19

2021年度年間での見通しですが、売上収益3兆9,300億円、事業利益が2,000億円です。

セグメント別のセグメント利益は、鉄鋼事業で1,400億円、エンジニアリング事業で250億円、商社事業で270億円、合わせて1,900億円という見込みです。当期利益は1,300億円と見込んでおります。

対前年度実績では、大幅に業績改善する見込みです。



2021年度業績見通し 鉄鋼事業

JFEスチール

粗鋼生産量 (JFEスチール単独)	年間2,650万t程度	為替レート	105円/ドル
(億円)	20年度 実績 (A)	21年度 見通し (B)	差異 (B)-(A)
セグメント利益	▲654	1,400	+2,054

(億円)

1. コスト	+300	・ 新規設備投資による効果
2. 数量・構成	+700	・ 鋼材需要回復による数量増 (粗鋼量 2,276⇒2,650万t程度)
3. 販価・原料	+150	・ 輸出を中心とした市況上昇
4. 棚卸資産評価差等	+900	・ 棚卸資産評価差+760 (▲370→+390) ・ 原料キャリアオーバー影響+140 (+30→+170) ・ 為替換算差±0(±0→±0)
5. その他	+4	・ 国内外グループ会社収益の改善、償却費増 等

20

鉄鋼事業について 2021 年度の見通しと、損益の増減についての内訳です。

粗鋼生産につきましては年間で 2,650 万トン程度を見込んでおります。為替前提については 1 ドルあたり 105 円です。

鉄鋼事業セグメント利益の 2021 年度見通しは 1,400 億円の黒字と、前年度実績 654 億円の赤字に対して 2,054 億円の改善です。

内訳は、コスト削減については 300 億円、新規の設備投資による効果等を見込んでおります。数量・構成については、前年度対比で粗鋼量が約 400 万トン近く増え、700 億円のプラスを見込んでおります。

販価・原料については、輸出を中心とした市況上昇による 150 億円のプラスを見込んでおります。

棚卸資産評価差等について、900 億円のプラスです。主な要因は棚卸資産評価差で、前年度が 370 億円のマイナスに対して、今年度は原料価格上昇により棚卸資産評価差のプラスがあり 390 億円のプラス、対前年度で 760 億円プラスを見込んでおります。

その他について、4億のプラスです。国内外のグループ会社の損益の改善も200億円以上期待できる一方で、償却費が200億円程度増える見込みで、両者相殺したかたちでの内訳になっております。



2021年度業績見通し エンジニアリング事業・商社事業

JFE エンジニアリング

JFE 商事

JFE

(億円)	20年度 実績 (A)	21年度 見通し (B)	差異 (B)-(A)
エンジニアリング事業 受注高	5,011	5,500	+489
セグメント利益	240	250	+10
商社事業 セグメント利益	200	270	+70

エンジニアリング事業

- ・受注：環境・エネルギー関連分野および鋼構造関連を中心とした社会インフラ分野が堅調に推移する見通し
- ・セグメント利益：受注案件の着実な遂行により250億円を見込む

商社事業

- ・国内：全体の活動水準の持ち直しや建材分野の市況好転の見通し
- ・海外：自動車を中心とした需要の回復や、米国の需要回復、鋼材市況上昇を想定
- ・セグメント利益：国内外の需要回復等を背景に、270億円を見込む

21

次にエンジニアリング事業と商社事業であります。

エンジニアリング事業につきましては、受注高については2021年度5,500億円で、2020年度よりさらに上乗せを見込んでおります。セグメント利益は250億円の見込みです。

商社事業につきましては、国内外ともに活動水準の持ち直し、市況好転等を反映しましてセグメント利益270億円で、前年対比70億円の改善を見込んでおります。

決算、および見通しにつきまして、私からは以上でございます。

質疑応答

司会：それでは、質疑応答に移りたいと思います。

質問者：鉄鉱石価格は、第1四半期の155ドルから、第2四半期に170ドルぐらいに上がっていき、原料炭は足下の市況であれば第一四半期が112ドル程度で決まってくると思います。また一方で熱延コイルの輸出価格は足下で1,000ドルに迫る勢いになっています。御社の21年度の業績予想において、原料価格と熱延コイルの輸出価格をどのような水準で想定しているのか教えていただきたい。

また、棚卸資産評価益が少し大きいようなのですが、これは昨年低価法でマイナスになった分の戻りがあるからでしょうか。

JFE：原料の前提は鉄鉱石については、おおむね足下のこの高い水準が継続するということで見ています。一方で原料炭は足下は110ドル台ではあるのですが、需要が旺盛であるため価格が上昇するリスクを勘案して想定しています。

熱延コイルの輸出価格は、上期については商談で決まってきた価格を反映をしており、今の段階ではおおむね7月のところぐらいまでは価格が見えていると理解しています。ただし下期に関してはまだ不透明な点があり、足下レベルではなく、従来のもう少し低いスプレッドの水準で考えています。

在庫評価益がやや大きい点については、低価法の戻りも若干ありますが、主な原因は先ほどの高水準の原料価格の前提によって計算されていることが大きくなっています。

質問者：ありがとうございます。原料炭は140\$/トンとか150\$/トンぐらいで想定しているのですか。

JFE：絶対値は申し上げることができませんけれども、ある程度のアップを想定しています。

質問者：了解しました。

司会：ありがとうございました。それでは次のご質問、よろしく願いいたします。

(億円)

JFEスチール	2020年度			増減
	上期	下期	年間	
セグメント利益	▲1,362	708	▲654	+2,070

1. コスト	+150	・ 減産コストアップの縮小 ・ 補修費・労務費を中心とした固定費削減
2. 数量・構成	+470	・ 自動車分野を中心とした需要回復に伴う数量増 (粗鋼量 1,017 ⇒ 1,259wt +242wt)
3. 販価・原料	+200	(≒鋼材トンあたり：1,800円) ・ 輸出を中心とした市況好転に伴い、スプレッド改善
4. 棚卸資産評価差等	+1,020	・ 棚卸資産評価差 +790 (▲580→+210) ・ 原料キャリーオーバー影響 +150 (▲60→+90) ・ 為替換算差 +80 (▲40→+40)
5. その他	+230	・ 国内外グループ会社収益の改善 他

25

質問者：販価・原料について、20年度の上期から下期にかけて200億円改善している一方で、20年度から21年度にかけては年間で150億円しか改善しないということは、21年度は20年度下期の水準よりも、悪化を想定している印象がありますけれども、その理解で良いでしょうか。また21年度の販価・原料の変化につき国内と輸出の内訳を教えてください。

JFE：21年度の想定が20年度下期よりも悪化するという理解で結構です。国内と輸出の内訳は、国内に関しては前年に対して悪化方向、輸出は改善という想定です。

輸出については足下非常に市況が好調な点を21年度の上期に反映しており、改善を想定していません。

国内については、原料価格が大幅に上昇する中で、営業としてはできるだけ速やかに価格反映を行う方針ですが、若干のタイムラグが生じてしまうため販価・原料影響は悪化を想定しています。

質問者：分かりました、ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは次のご質問、よろしくお願いいたします。

質問者：御社から見た足下の鋼材の需給環境をどうご覧になられているかを教えてください。海外の市況がかなり改善して、国内の市況も上がってきており、在庫もかなりタイトで非常に環境は良いと見ていますが、現状の引合いの状況と、この好環境がどこまで続くと想定されているか教えてください。

また 2020 年度の第 4 四半期で、エンジニアリング事業の利益が低下していますが、背景を教えてください。

2021 年度のエンジニアリング事業について、もう少し利益の上積みはできないのかも併せて教えてください。

JFE：足元の需給状況について、今、国内の自動車は半導体の供給不足等の影響はそれほど出ている状態にはなっておらず、20 年度下期並みの需要は十分あると見ております。

また直近では建産機等の需要が非常に強くなっていると感じており、当社が計画の前提としている需要は十分にあると思います。

輸出についても、非常に引合いは強く、背景としては世界的に需要に対して供給が追いついていないという構造的な面があると思います。

どこまで続くかということに関しては、国内については、今年度は、コロナウイルスの影響が大きくなる限りはこの水準で推移するのかなと思います。

輸出については、中国の鋼材輸出の税負担の引き上げ等の影響もあり、足元のタイトな状況は継続すると想定されますが、好環境がいつまで続くのかという事を明確に言うのは難しいと思います。

エンジニアリング事業の 20 年度第 4 四半期の利益が低いという点についてご説明します。エンジニアリング事業の大半は工事進行基準を使用し、工事の進捗の都度にあわせて売上と利益を計上しています。

かつては、年度末に売上・利益の計上が集中する傾向がありましたが、現在は四半期ごとに工事進捗を詳細に反映しており、必ずしもそうではなくなっています。20 年度は工事の進捗が第 3 四半期に大きく利益の計上があったこともあり、第 4 四半期についてはその反動により、若干利益が低水準になっています。

21 年度のセグメント利益は 250 億という計画ですが、もちろんコスト削減等を積み上げて、さらなる上乗せは図っていきたいと思います。

中期計画では 24 年度に向けて売上収益 6,500 億円、セグメント利益 350 億円を目指しており、さらには 2030 年度には売上収益 1 兆円程度という目標がありますので、そこに向けて確実に受注を積み上げ、利益を確保する年として 21 年度は取り組んでいきます。

質問者：分かりました。ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。それでは次のご質問、お願いいたします。

質問者：御社の圧延能力についての質問です。薄板は国内外で相当需給がひっ迫している状況かと思えます。御社の今回の 21 年度の計画に対して薄板の圧延能力の余力の有無を教えてください。

また、説明資料の 20 ページ、21 年度の業績見通しで数量・構成が 700 億円の改善となっていますが、粗鋼生産量が約 400 万トン程度増加する計画で、御社の限界利益を考えると金額が少ないと思えます。何か品種構成で悪化を想定しているのか解説をお願いします。

JFE：圧延能力に関してですが、基本的には薄板系に関してはかなりフルという状況だと思えます。ただ厚板に関しては、やや能力的には余力があるという状況です。

数量・構成の 700 億円の改善ですが、21 年度の見通しについては現時点では詳細に積み上げていく数字ではなく、ある程度的前提を置いて概算として算出しており、特に何か大きな品種構成の変化は想定していません。

質問者：分かりました。ありがとうございます。

司会：ありがとうございました。それでは第 1 部、次を最後の質問とさせていただきます。

よろしくをお願いいたします。

質問者：21 年度の業績見通しにつき、上期と下期の段差について、ヒントがあれば教えてください。おそらく上期に在庫評価益が大きく、あと鋼材マージンの見方も上期にかなり強く見込んでいると想定され、上期に利益が偏って下期あまり利益が出ないような感じを受けています。

また、買収防衛策を今回廃止されましたけれども、背景を教えてください。

JFE：21 年度の上期と下期の内訳の具体的な数値は公表していませんが、棚卸評価益は上期に多く実現しますし、輸出のスプレッドも足下の高水準な状況が上期は続くと想定していますので、これらの要素ではやはり上期のほうが利益が高いこととなります。

一方で粗鋼生産量は 21 年度の見通しを 2,650 万トンとしていますが、21 年 12 月に倉敷第 4 高炉が改修を終え再稼働する予定であり、数量面では下期のほうが増加する見込みです。

また、買収防衛策については、基本的に少数株主の権利保護という意味から、買収防衛策の必要性の意義は当社としては変わっていないと思っています。しかしながら、買収防衛策に対する機関投資家の考え方が大変厳しくなっており、原則反対に傾いたということがあり、現状では買収防衛策を維持するのは得策ではないと考えています。

しかしながら、現状の会社法のルールの中で、少数株主の保護を確保する方策については引き続き検討しているところです。

質問者：ありがとうございました。

司会：ありがとうございました。以上で、第1部の質疑応答を終了させていただきます。

[了]

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、提示された予測等は説明会の時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。